

# 迫力満点のダートラカーニバル

## '84ラリーアートトライアルINエビス

### 東日本ダートラカーニバル



望月(中) 稲葉(右) 大会審査員

開催されました。真夏の太陽のもと最高の盛り上がりをもせたトライアルでした。トライアル成績は別表のとおりですが、B-IIクラスでは、優勝の栗津原豊選手、2位の昆野吉夫選手ともランサー勢が占めるという快挙を成し遂げました。

ダートトライアルの祭典、JAF公認準国内制限付競技'84ラリーアートトライアルINエビス(主催CMSC)が8月5日(日)、福島県二本松の東北サファリパーク内エビスサーキットで

またDクラスでは、優勝の田嶋伸博選手が区間通過賞10万円を獲得、2位の国政久郎選手も同5万円を獲得しました。

#### 競技結果成績表

B-Iクラス				B-IIクラス				C-Iクラス			
優勝	高橋 恵一	バルサー	1'49'68	優勝	栗津原 豊	ランサーターボ	1'42'64	優勝	鶴 一郎	スターレット	1'40'98
2位	高橋 雄二	スターレット	1'50'10	2位	昆野 吉夫	ランサーターボ	1'45'15	2位	亀山 晃	サニー	1'41'75
3位	斉藤 義彦	スターレット	1'50'10	3位	綾部美津雄	MR2	1'46'60	3位	高橋 正宏	カローラ	1'42'38
4位	山田 誠之	ファミリア	1'50'87	4位	宮本 貴之	カローラ	1'46'61	4位	佐藤 栄一	スターレット	1'43'33
5位	関 勇雄	サニー	1'51'30	5位	深田 義光	ランサーターボ	1'46'62	5位	田畑 哲雄	サニー	1'43'42
6位	角田健一郎	スターレット	1'51'70	6位	鈴木 孝	サニー	1'46'63	6位	小松 安男	スターレット	1'43'71
C-IIクラス				Dクラス				レディースクラス			
優勝	小林 照明	カローラ	1'39'53	優勝	田嶋 伸博	ブルーバード4WD	1'34'65	優勝	花沢 恭子	サニー	1'51'70
2位	棟方 勇悦	スバル	1'40'45	2位	国政 久郎	スターレット	1'40'23	2位	岩崎 順子	カローラ	2'00'35
3位	中村 寿史	カローラ	1'41'45	3位	島貫 祐二	カローラ4WD	1'41'05	3位	長田 幸代	ランサーターボ	2'01'36
4位	斉藤 光重	カローラ	1'42'42	4位	木暮今朝夫	セリカ	1'41'56	4位	本間 泉	スターレット	2'04'60
5位	高柳 毅	ランサーターボ	1'43'39	5位	奈良岡正輝	カローラ	1'41'83	5位	渡辺 苑子	レオーネ	2'08'53
6位	佐々木寿夫	サニー	1'44'34	6位	辰己 英治	レオーネ	1'42'08				



外川大会会長あいさつ

### もう一つの熱い戦い

三菱車によるワンメーカー「ラリーアートカップ」はCMSCメンバーを中心に18台が参加。同5日、華々しく開催されました。コースはラリーアートトライアルとは別のショートコース。優勝は長野県から参加した逸見選手が獲得しました。2位にはCMSC福島の会長で今大会の組織委員長である菅野茂選手が入賞。以下の成績は別表のとおりです。

このレース最大の興味は、特別参加の篠塚建次郎選手(1'28'11)の走り。さすが、優勝した逸見選手より4秒以上も速いタイムを出して、腕前のほどを見せてくれました。

また今回は、4x4オフロードレースの雄、増岡浩選手のパジェロもテスト&サービスチームから特別参加。フルターンコースで、しかも車高の高いパジェロが1分33秒09で走ったという

ことは、優勝とのタイム差はほとんどなく、さすが日本四輪駆動車協会主催のオフロードレースチャンピオンだと感じさせてくれました。

## ラリーアートカップに男たちが燃えた



第3位 CMSC山形佐藤選手 優勝逸見選手 2位菅野茂選手 3位佐藤選手 CMSC本部 折田選手



特別参加の篠塚建次郎選手 4x4オフロードレースの雄 増岡浩選手 CMSC帯広青沼選手リタイア

#### ラリーアートカップ(ワンメーカー戦)順位

優勝	逸見 康夫		1'32'75	6位	町田 徹雄	CMSC栃木	1'37'07
2位	菅野 茂	CMSC福島	1'33'06	7位	荒木 久一	CMSC山形	1'37'15
3位	佐藤 正博	CMSC山形	1'34'94	8位	横倉 正道		1'37'23
4位	高野 正伸	CMSC福島	1'34'97	9位	折田 篤彦	CMSC本部	1'38'44
5位	島山 幸記	CMSC福島	1'36'69	10位	菅野 昭雄	CMSC福島	1'39'69

## 海外のレースで大活躍

# いま注目を浴びている三菱スタリオン

### ●「オーストラリアン スーパーシリーズ'84」総合優勝

モータースポーツに対する関心は年々高まり、世界各国で各種のイベントが催されています。その中でも'84年4月29日から7月29日まで、全6回のレースが開催された「オーストラリアンスーパーシリーズ'84」にスタリオンが10台出場、うち4台が総合で1位、2位、6位、7位を占めました。また三菱コルディアターボ5台も4回戦以降のレースに参戦し、10位以内に入る



など大活躍。このシリーズ戦における三菱車の評価は非常に高まりました。

出場車の仕様概要は、オーストラリア国内の基準、グループEの規定により、市販車をベースにエクゾーストシステム、ブレーキパット、ショックアブソーバの強化、ロールバー、5点式シートベルト、ハイパフォーマンスタイヤ以外の仕様変更はしていません。

〈総合順位〉総出場台数29台

優勝	三菱スタリオン
2位	三菱スタリオン
3位	アルファロメオ
4位	アルファロメオ
5位	フォード
6位	三菱スタリオン
7位	三菱スタリオン
8位	フォード
9位	B M W
10位	アルファロメオ

### ●アメリカ「SCCAネルソンレッジ24時間レース」クラス優勝



6月30日から7月1日にかけてオハイオ州で開催された「'84年 SCCAネルソンレッジ24時間ロードレース」にスタリオンが10台出場。市販車無改造クラスで優勝、総合でも7位という好成績を納めました。6月30日午後3時スタート、連続24時間のこのレース。スタリオンは、フロントベアリングの交換を1度、それに定期的な給油、ドライバーの交替をした以外停止せず、力強く走り続けました。このスタリオンは、

2.6ℓ、ティヴ・ウォレンモーターレーシングチームから、市販車無改造クラスに出場。ロールバー、5点式シートベルト、ハイパフォーマンスタイヤの装着の他は仕様変更せずに出場しました。その結果、同クラス出場の強豪ライバル車(トライアンフTR-8、サブターボ、ニッサン280ZX、マツダRX-7、シボレーカマロなど)を抑え、見事無改造クラスでの優勝を果たしました。

## CMSCだより



6月23日(土)～24日(日) 館内・工藤組、三菱自動車賞を獲得!

### CMSC 帯広主催 第1回コルトラリー

結成4年目を迎えたCMSC帯広が初めて主催した「第1回コルトラリー」が華々しく開催されました。

足寄町を基点とする約200kmのこのラリーコース、参加台数は22台と若干少ない数でしたが、大はりきりの選手たちの熱気で会場は大盛況。栄えある三菱自動車賞はCクラス第5位の館内・工藤組(RTC所属)が獲得。



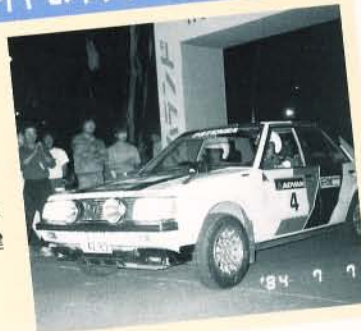
また、CMSC本部篠塚健次郎選手によるラリー走行アドバイスが、参加者の大好評を博しました。

7月7日(土)～8日(日) 三菱車の健闘光る!

### CMSC 岩手主催 岩手三菱ダイヤモンドラリー

盛岡マツハランドをスタート、紫波町志和稲荷温泉をゴール地とした、岩手三菱ダイヤモンドラリーはBクラス参加車35台中16台を三菱車が占めるという盛況ぶりでした。

Bクラスで優勝したのは青森の佐々木・鶴林組のランサーターボ。三菱車の健闘ぶりが光ったラリーでした。



7月8日(日) ランサーインタークーラーターボ B IIクラス優勝を果たす!

### CMSC 香川主催 '84 CMSC アストロトリアル

参加車両133台を集めた'84CMSCアストロトリアルは香川県にある香川スポーツランドで開催されました。

三菱自動車賞はB IIクラス優勝を果たした藤原健二選手(SRCC所属ランサーインタークーラーターボ/優勝タイム1分35秒09)が獲得。地元選手勢の活躍が目立ちました。



7月7日(土)～8日(日) 交通遺児チャリティ道新スポーツ杯争奪戦

### CMSC 札幌主催 ダイヤモンドチャレンジラリー'84

なんと札幌大通り西8丁目からスタート。支笏湖～白老を舞台に、約300kmのコースを走破するこのラリー、交通遺児チャリティ道新スポーツ杯争奪戦と銘付た、準国内競技です。片岡・塚原組のランサーターボがC

ラス第3位入賞を果たし、CMSC帯広の青沼・布施組はCクラス7位という結果。CMSC本部の篠塚健次郎選手はクレストのナビ佐藤選手と組んでゼッケン00番で試走し、話題を集めました。